



平成25年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成25年11月12日

上場会社名 日本エマージェンシーアシスタンス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6063 URL http://emergency.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 一正
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 前川 義和 TEL 03-3811-8121
 四半期報告書提出予定日 平成25年11月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨)

1. 平成25年12月期第3四半期の連結業績（平成25年1月1日～平成25年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年12月期第3四半期	1,468	2.2	13	△84.7	3	△94.1	3	△92.3
24年12月期第3四半期	1,436	—	88	—	67	—	40	—

(注) 包括利益 25年12月期第3四半期 21百万円 (△49.4%) 24年12月期第3四半期 42百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年12月期第3四半期	2.62	2.51
24年12月期第3四半期	37.45	36.68

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年12月期第3四半期	1,427	583	40.9	486.51
24年12月期	1,052	557	53.0	468.93

(参考) 自己資本 25年12月期第3四半期 583百万円 24年12月期 557百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25年12月期	—	0.00	—	—	—
25年12月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年12月期の連結業績予想（平成25年1月1日～平成25年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,000	5.7	30	△79.6	22	△82.7	12	△82.8	10.87

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

詳細は、添付資料P. 2「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご参照ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 有

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 有

④ 修正再表示： 無

「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、添付資料P. 2「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご参照ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

25年12月期3Q	1,199,000株	24年12月期	1,189,400株
25年12月期3Q	74株	24年12月期	—株
25年12月期3Q	1,195,109株	24年12月期3Q	1,090,025株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

(注)当社は、平成24年3月23日付で普通株式1株につき400株の割合で株式分割を行いました^が、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、期末発行済株式数及び期中平均株式数を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想に関する定性的情報」をご参照ください。

（株式分割）

・平成24年3月23日付で普通株式1株につき400株の割合で株式分割を実施しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	1
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	1
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	2
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	2
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	2
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	2
3. 四半期連結財務諸表	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	4
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	4
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
(3) 継続企業の前提に関する注記	6
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	6
(5) セグメント情報等	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や日本銀行の金融政策を背景とした円安・株高傾向を受けて、輸出関連企業を中心とした業績の好転や、個人消費の持ち直しにより、景気は緩やかに回復してきております。

しかしながら、海外経済の情勢に不透明感もあることから、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

当社グループの主要事業の業績に影響を与える海外出国者数につきましては、円安の影響等により2月以降は対前年同月比で減少し、7月は1,454千人（前年同月比9.0%減）、8月は1,842千人（前年同月比6.2%減）、9月は1,550千人（前年同月比4.5%減）となっております（日本政府観光局（JNTO）調べ、8、9月はJNTO推計値）。

そのような状況の中、当第3四半期連結累計期間の売上高に関しては1,468百万円となり前年同期と比べ若干の増収となりました。

費用に関しては、当社グループは本年度を「効率的な長期的ビジネス拡大の基盤作りの年」と捉え、グローバルな能力を持つ社員の採用と教育、医療機関とのネットワークの構築、アシスタンスセンターの新電話システムへの投資等を積極的に実施いたしました。

また、タイセンターのオペレーション費用の増加や中国センターの人件費増加等の海外センターの現地通貨建て経費の増加に加え、円安の影響による円貨換算額も膨らみ費用が増加しました。

また、将来の成長分野として捉えている国際医療事業分野は、官公庁事業の受託、外国人患者受入を着実に実施しているものの、依然として投資先行の状況にあります。

一方、9月からはアジア地域における企業向けセキュリティ・アシスタンス商品を開発して市場投入しております。今後もセキュリティ・アシスタンスを新成長分野と位置付け、市場を開拓して参ります。

これらの要因から、売上原価は1,160百万円（前年同期比8.6%増）、販売管理費が294百万円（前年同期比5.3%増）となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の営業利益は13百万円（前年同期比84.7%減）、経常利益は3百万円（前年同期比94.1%減）、四半期純利益は3百万円（前年同期比92.3%減）となりました。

セグメントの状況は次のとおりであります。

（医療アシスタンス事業）

主力事業である海外旅行保険付帯サービスにつきましては、海外出国者数が減少する中、アシスタンスサービス提供数は順調に推移しました。またアシスタンスサービス提供体制に関しましては、タイセンターの拡張により東南アジア地域におけるサービスの強化を図ると共に、海外医療機関とのネットワークの強化も引き続き進めております。

今後の収益の柱として位置付けている国際医療事業分野につきましては、海外からの外国人患者受入事業を着実に実施するとともに、海外における医療事業の調査等の国際医療コンサルティングにも力を入れております。具体的には経済産業省資源エネルギー庁の平成25年度産油国石油精製技術等対策事業費補助金（産油国開発支援等事業のうち産油国産業協力等事業に係るもの）に関する事業に当社事業が採択されております。

また、日本企業のグローバル化に伴い、テロ等を含めて邦人が海外でトラブルに遭うケースが増加する等、海外におけるリスクが多様化・巨大化する中で、社員を海外へ派遣する法人及び留学生を派遣する大学の多くが海外における危機管理体制の構築及び強化を進めております。このような状況において、当社は、法人及び大学の危機管理体制を支援する企業として、積極的な営業活動を実施してきた結果、法人及び大学との新規契約も順調に増加しております。

この結果、医療アシスタンス事業の売上高は1,203百万円（前年同期比2.2%増）、セグメント利益は180百万円（前年同期比27.1%減）となりました。

（ライフアシスタンス事業）

既存顧客へのコンシェルジュサービスの着実な提供で、売上は順調に推移しており、高品質の業務実績を積み重ねることで当社のコンシェルジュサービスに対する評価と認知度が高まっております。

この結果、ライフアシスタンス事業の売上高は264百万円(前年同期比2.4%増)、セグメント利益は67百万円(前年同期比8.0%減)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産につきましては、前連結会計年度末に比べ375百万円増加し、1,427百万円となりました。主な増減要因としては、医療アシスタンス事業の案件数増加に伴い医療費用の立替金が284百万円増加したこと、売掛金の32百万円の増加、仕掛品の13百万円の増加、有形固定資産の14百万円の増加及び無形固定資産の15百万円の増加がありました。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ349百万円増加し、844百万円となりました。主な増減要因としては、立替資金や納税資金の確保のため金融機関からの借入として短期借入金が310百万円、長期借入金が60百万円増加したこと及び1年内償還予定の社債の33百万円の減少がありました。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ25百万円増加し、583百万円となりました。これは主に、新株予約権の行使による新株の発行により資本金及び資本剰余金がそれぞれ3百万円増加したこと、ドル高・円安の影響により為替換算調整勘定が18百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年12月期の業績見通しにつきましては、平成25年7月16日に公表いたしました業績予想に変更はありません。なお、詳細は平成25年7月16日に別途公表している「第2四半期業績予想及び通期業績予想の修正並びに配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(減価償却方法の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成25年1月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

この変更が、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表
(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	423,048	413,336
売掛金	122,782	155,448
仕掛品	54,523	67,538
立替金	300,834	585,196
その他	48,105	74,488
貸倒引当金	△1,569	△2,760
流動資産合計	947,724	1,293,248
固定資産		
有形固定資産	46,031	60,677
無形固定資産	24,878	40,499
投資その他の資産	33,993	33,233
固定資産合計	104,903	134,411
資産合計	1,052,628	1,427,660
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,314	3,519
短期借入金	40,000	350,000
1年内返済予定の長期借入金	53,400	32,462
1年内償還予定の社債	33,200	—
未払法人税等	43,538	1,810
前受収益	147,729	129,271
賞与引当金	—	23,640
その他	164,642	233,450
流動負債合計	485,825	774,154
固定負債		
長期借入金	8,300	68,346
その他	754	1,869
固定負債合計	9,054	70,215
負債合計	494,879	844,369
純資産の部		
株主資本		
資本金	289,983	292,983
資本剰余金	215,983	218,983
利益剰余金	54,443	55,921
自己株式	—	△113
株主資本合計	560,410	567,775
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△2,662	15,515
その他の包括利益累計額合計	△2,662	15,515
純資産合計	557,748	583,290
負債純資産合計	1,052,628	1,427,660

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
売上高	1,436,704	1,468,489
売上原価	1,068,405	1,160,587
売上総利益	368,298	307,902
販売費及び一般管理費	279,621	294,311
営業利益	88,676	13,591
営業外収益		
受取利息	189	237
助成金収入	516	30
その他	161	190
営業外収益合計	868	457
営業外費用		
支払利息	2,853	2,524
為替差損	3,464	4,702
持分法による投資損失	—	2,486
株式交付費	3,643	140
株式公開費用	11,969	—
その他	278	199
営業外費用合計	22,209	10,053
経常利益	67,335	3,996
特別損失		
固定資産除却損	13	3
固定資産売却損	8	6
特別損失合計	22	10
税金等調整前四半期純利益	67,313	3,986
法人税等	26,488	855
少数株主損益調整前四半期純利益	40,825	3,130
四半期純利益	40,825	3,130

(四半期連結包括利益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	40,825	3,130
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	1,326	17,643
持分法適用会社に対する持分相当額	—	534
その他の包括利益合計	1,326	18,177
四半期包括利益	42,151	21,308
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	42,151	21,308
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1.	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2.
	医療アシスタ ンス事業	ライフアシスタ ンス事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,178,156	258,548	1,436,704	—	1,436,704
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,178,156	258,548	1,436,704	—	1,436,704
セグメント利益	248,220	73,274	321,495	△232,818	88,676

(注) 1. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1.	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2.
	医療アシスタ ンス事業	ライフアシスタ ンス事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,203,692	264,797	1,468,489	—	1,468,489
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,203,692	264,797	1,468,489	—	1,468,489
セグメント利益	180,963	67,380	248,343	△234,752	13,591

(注) 1. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。